

2021年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年9月11日

上場会社名 フリービット株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3843 URL <https://freebit.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO 兼 CTO (氏名) 石田 宏樹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役グループ経営企画本部長 (氏名) 和田 育子 TEL 03-5459-0522
 四半期報告書提出予定日 2020年9月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年4月期第1四半期の連結業績（2020年5月1日～2020年7月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年4月期第1四半期	13,417	0.2	617	85.3	586	105.1	218	—
2020年4月期第1四半期	13,386	28.3	333	△17.0	286	66.1	△180	—

(注) 包括利益 2021年4月期第1四半期 477百万円(—%) 2020年4月期第1四半期 △52百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年4月期第1四半期	9.96	9.95
2020年4月期第1四半期	△8.14	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年4月期第1四半期	47,781	11,463	17.3
2020年4月期	42,472	10,848	19.0

(参考) 自己資本 2021年4月期第1四半期 8,287百万円 2020年4月期 8,079百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年4月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2021年4月期	—	—	—	—	—
2021年4月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

現時点において2021年4月期の配当予想については未定であります。

3. 2021年4月期の連結業績予想（2020年5月1日～2021年4月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	54,000	△2.3	1,900	△26.6	1,700	△31.5	△200	—	△9.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社は年次での業務管理を行っておりますので、第2四半期(累計)の連結業績予想の記載を省略しております。詳細は、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年4月期1Q	23,414,000株	2020年4月期	23,414,000株
② 期末自己株式数	2021年4月期1Q	1,470,123株	2020年4月期	1,470,123株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年4月期1Q	21,943,877株	2020年4月期1Q	22,189,599株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算の概要説明の入手若しくは閲覧の方法）

- ・ 四半期決算補足説明資料は、TDnetで同日開示を行うとともに当社ウェブサイトにも掲載する予定です。
- ・ 四半期決算の概要説明は、その記録動画を当社ウェブサイトにも速やかに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

「経営成績に関する説明」において使用する名称の正式名称及びその説明は、下記のとおりであります。

使用名称	正式名称	説明
SNS	Social Networking Service	インターネットを利用して社会的ネットワークを構築可能にするサービスで、ソーシャルメディアの1つ
AMPU	Average Margin Per User	1ユーザーまたは1回線あたりの平均粗利
リスティング広告	Listing Advertisement	検索エンジンでのキーワード検索時に、その検索結果に連動して表示される広告
アドテクノロジー	Ad Technology	「テクノロジーを駆使した広告」の総称で主にインターネット広告における配信技術や広告流通の技術のこと
運用型広告	Programmatic Advertising	膨大なデータを処理するプラットフォームの活用による最適な広告を自動・即時に表示する方式の広告
ソーシャルメディア	Social Media	個人による情報発信や個人同士のコミュニケーションを主とした人の結びつきを利用した情報流通メディアのこと
ヘルステック	Health Technology	“健康×IT”によりヘルスケア領域に変革を起し、次世代の健康管理メソッドを創出していくもの
フリービットEPARKヘルスケア	株式会社フリービットEPARKヘルスケア	当社連結子会社
エドテック	Education Technology	“教育×IT”により、語学教育領域に変革を起し、ICTを活用して語学教育ソリューションを進化させていくもの
ICT	Information and Communication Technology	情報通信技術
不動産Tech/不動産テック	Real Estate Technology	“不動産×IT”により不動産業界に新しいサービスの潮流を起し、ITを用いて不動産関連サービスを進化させていくもの
DSP	Demand Side Platform	広告主の広告効果最適化を目指すプラットフォーム
アフィリエイト	Affiliate Marketing	Webページ等の広告を経由して、広告主のサイトで会員登録や商品購入をした場合にリンク元の媒体運営者へ報酬が支払われる仕組み
アルク	株式会社アルク	当社連結子会社

当第1四半期連結累計期間は、売上高、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益の何れも前第1四半期連結累計期間を上回る結果となりました。その理由として、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、テレワーク需要が高まったことで当社グループの通信インフラサービスの需要が増加したことが挙げられます。

当第1四半期連結累計期間における国内景気は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言を受け経済活動が停滞したことにより急速に悪化しております。緊急事態宣言解除後は徐々に経済活動が再開されつつあるものの、秋冬期の新型コロナウイルス感染症の流行も懸念されるなど感染拡大が未だ予断を許さない状況の中、今後の景気や経済動向が見通しにくい状況が続いています。

そのような状況の中、緊急事態宣言の発出により発表された「新型コロナウイルス感染症 対策の基本的対処方針」において、職場への出勤者を7割削減の要請が出たことによるテレワークの導入・拡大が急増したことに伴い、当社グループにおいては、主力事業であるモバイル通信サービスをはじめ、クラウドサービスやセキュリティサービスにおける需要が増加しています。一方で、当社グループが設立時よりサービスを提供している固定網ブロードバンド通信サービスにおいては、これまでのネット動画やゲーム等のリッチコンテンツの利用増加及びSNSのようなアクセス頻度の高いサービスの利用拡大等による通信トラフィックの増加に加え、テレワークや教育分野のオンライン授業の大幅な利用拡大により、ネットワーク原価が上昇し、AMPUは低下傾向にあります。

集合住宅向けインターネット接続サービス市場は、高速ブロードバンド環境導入による資産価値や入居率の向上を目的に、既築物件へのインターネット導入が進んでおりますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に伴う自宅でのインターネット利用の需要の増加により、その導入がより一層進む傾向にあります。

インターネット広告市場は、好調な日本経済を背景に2桁成長を継続しています。その中でも従来型の予約型広告からリスティング広告、アドテクノロジー活用広告といった運用型広告への移行が進むとともに、動画広告やソーシャルメディア広告が牽引する形で市場が拡大し、特にモバイル向け広告の成長が顕著となりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が市場拡大に影を落とすつつあります。

日本における高齢化率は、2019年も過去最高を更新し、2030年にはヘルスケア市場が国内市場37兆円の規模にまで成長すると予測される中、ヘルステック事業を担うフリービットEPARKヘルスケアにおいては、お薬手帳アプリ利用者や調剤薬局向けソリューションサービス利用事業者の獲得等を企図した投資を継続した結果、事業規模が引き続き拡大しています。

エドテック市場は、文部科学省が「教育の情報化ビジョン」において、子どもたちの情報活用能力を育成する情報教育や教科指導における情報通信技術の活用等による教育の質の向上を目指し、教育におけるICT活用が推進されてきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインを活用した自宅学習環境の伸長が想定されています。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① インフラテック事業

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う自宅学習やテレワークの普及に伴い、宅内Wi-Fi環境を通じたオンライン授業や会議、ネット動画視聴、ゲームをはじめとしたリッチコンテンツやSNSの利用増加等により固定回線網サービスの原価率は引き続き高いものの、テレワーク利用が急速に広まったことに伴い、MVNO支援パッケージサービスをはじめとした通信インフラサービスの需要増により、売上高は増加し、利益は倍増しました。

以上の結果、売上高は4,039,499千円(前年同四半期比3.9%増)、セグメント利益は272,006千円(前年同四半期比104.4%増)となりました。

② 不動産テック事業

集合住宅向けインターネット接続サービスの順調な拡大により売上及び利益が堅調に推移しました。また、今後の拡大に向けた“不動産Tech”分野への投資や回線品質の向上を図りました。

以上の結果、売上高は3,437,506千円(前年同四半期比11.0%増)、セグメント利益は307,215千円(前年同四半期比1.1%増)となりました。

③ アドテック事業

インフルエンサー事業の拡大に注力するとともにアドテクノロジー関連サービスであるDSP広告や動画広告市場向けの商材を中心としたインターネット広告サービスの提供に努めました。また、アフィリエイトサービスにおいては、海外展開及び新規事業にも積極的に取り組み、さらなる収益基盤の拡大を進めました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、来店誘導型広告サービスをはじめとする広告事業の売上及び利益がともに減少しました。

以上の結果、売上高は3,998,519千円(前年同四半期比9.9%減)、セグメント利益は121,030千円(前年同四半期比33.7%減)となりました。

④ ヘルステック事業

2016年のヘルステック事業開始以降、事業全体としては赤字が続いておりましたが、フリービットEPARKヘルスケアでのお薬手帳アプリ利用者や薬局向けソリューションサービス利用事業者の獲得等により、事業規模が引き続き伸長したことに加え、不採算事業の整理による利益改善により、売上高は1,165,080千円(前年同四半期比59.7%増)、セグメント利益は130,435千円(前年同四半期は136,576千円のセグメント損失)となりました。

⑤ エドテック事業

当事業を担うアルクは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、講師派遣型語学研修事業や留学関連事業のサービス停止により大幅に収益が減少しました。また、緊急事態宣言下における書店の閉店等に伴い、書籍の収益も減少しました。

以上の結果、売上高は907,576千円(前年同四半期比33.3%減)、セグメント損失は215,962千円(前年同四半期は156,121千円のセグメント損失)となりました。

以上の結果、売上高は13,417,071千円(前年同四半期比0.2%増)、営業利益は617,348千円(前年同四半期比85.3%増)、経常利益は586,885千円(前年同四半期比105.1%増)、そして親会社株主に帰属する四半期純利益は218,539千円(前年同四半期は180,701千円の損失)となりました。

セグメント別売上高及びセグメント損益

(単位:千円)

区分	売上高	セグメント利益 又は損失(△)
インフラテック事業	4,039,499	272,006
不動産テック事業	3,437,506	307,215
アドテック事業	3,998,519	121,030
ヘルステック事業	1,165,080	130,435
エドテック事業	907,576	△215,962
調整額	△131,111	2,622
合計	13,417,071	617,348

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は47,781,855千円となり、前連結会計年度末と比べて5,309,729千円増加しました。これは主として、現金及び預金が1,728,310千円及び未収入金が3,483,453千円増加したことによるものです。

負債は36,317,871千円となり、前連結会計年度末と比べて4,694,333千円増加しました。これは主として、長期借入金が758,232千円減少したものの、未払金が5,403,971千円増加したことによるものです。

純資産は、非支配株主持分が増加したこと等により、前連結会計年度末と比べて615,396千円増加の11,463,983千円となり、この結果、自己資本比率は17.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年4月期は、コロナ禍の収束がまだまだ不透明な状態である中で、不確実性が高い事業の業績を保守的に見積もり、連結売上高540億円、連結営業利益19億円、連結経常利益17億円、親会社株主に帰属する当期純損失2億円を予想しており、2020年6月19日に公表したものからの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,720,604	17,448,915
受取手形及び売掛金	9,302,677	8,817,809
商品及び製品	749,875	777,256
仕掛品	144,580	173,987
原材料及び貯蔵品	568,273	632,938
未収入金	4,309,766	7,793,219
その他	2,513,446	2,307,159
貸倒引当金	△192,960	△200,535
流動資産合計	33,116,264	37,750,752
固定資産		
有形固定資産	2,725,393	2,724,007
無形固定資産		
のれん	1,539,662	1,720,961
ソフトウェア	712,817	800,762
リース資産	1,359,619	1,224,951
その他	59,903	152,535
無形固定資産合計	3,672,002	3,899,212
投資その他の資産		
投資有価証券	1,496,278	1,913,759
差入保証金	748,034	743,389
その他	1,010,294	1,045,576
貸倒引当金	△296,142	△294,842
投資その他の資産合計	2,958,464	3,407,883
固定資産合計	9,355,861	10,031,102
資産合計	42,472,125	47,781,855
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	652,332	506,358
短期借入金	700,000	500,000
1年内返済予定の長期借入金	3,174,430	3,629,309
未払金	8,508,386	13,912,357
未払法人税等	602,232	384,951
引当金	550,957	538,987
その他	3,575,588	3,857,450
流動負債合計	17,763,927	23,329,414
固定負債		
社債	2,920,000	2,920,000
長期借入金	7,433,801	6,675,569
リース債務	3,083,786	2,919,374
役員退職慰労引当金	65,713	70,000
退職給付に係る負債	67,162	68,793
その他	289,147	334,719
固定負債合計	13,859,611	12,988,457
負債合計	31,623,538	36,317,871

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,514,185	4,514,185
資本剰余金	3,122,709	3,121,858
利益剰余金	1,340,613	1,405,545
自己株式	△917,053	△917,053
株主資本合計	8,060,454	8,124,536
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,320	155,466
為替換算調整勘定	7,712	7,895
その他の包括利益累計額合計	19,032	163,362
新株予約権	3,266	3,266
非支配株主持分	2,765,833	3,172,818
純資産合計	10,848,586	11,463,983
負債純資産合計	42,472,125	47,781,855

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2019年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年5月1日 至 2020年7月31日)
売上高	13,386,685	13,417,071
売上原価	9,634,731	9,299,565
売上総利益	3,751,953	4,117,506
販売費及び一般管理費	3,418,831	3,500,158
営業利益	333,122	617,348
営業外収益		
受取利息	476	52
受取配当金	7	1
持分法による投資利益	—	1,745
還付消費税等	221	2,014
助成金収入	2,110	2,970
違約金収入	2,335	9,828
償却債権取立益	9,594	—
その他	2,135	7,164
営業外収益合計	16,881	23,776
営業外費用		
支払利息	40,273	42,861
持分法による投資損失	3,724	—
支払手数料	10,471	5,205
その他	9,359	6,172
営業外費用合計	63,828	54,238
経常利益	286,174	586,885
特別利益		
固定資産売却益	—	1,359
投資有価証券売却益	116	—
特別利益合計	116	1,359
特別損失		
固定資産除売却損	31	3,003
事務所移転費用	—	1,262
特別損失合計	31	4,266
税金等調整前四半期純利益	286,259	583,978
法人税、住民税及び事業税	266,692	321,824
法人税等調整額	73,647	△71,318
法人税等合計	340,339	250,505
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△54,080	333,473
非支配株主に帰属する四半期純利益	126,621	114,933
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△180,701	218,539

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2019年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年5月1日 至 2020年7月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△54,080	333,473
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,397	144,158
為替換算調整勘定	3,086	319
その他の包括利益合計	1,688	144,477
四半期包括利益	△52,392	477,950
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△180,342	362,868
非支配株主に係る四半期包括利益	127,950	115,082

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書に追加情報として記載した新型コロナウイルス感染症の影響について、新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定に重要な変更はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2019年5月1日至2019年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	インフラテック 事業	不動産テック 事業	アドテック事業	ヘルステック 事業	エドテック事業
売上高					
外部顧客への売上高	3,853,364	3,071,220	4,372,439	729,577	1,360,084
セグメント間の内部売上高 又は振替高	32,771	25,958	65,555	15	788
計	3,886,135	3,097,178	4,437,995	729,592	1,360,873
セグメント利益又は損失(△)	133,102	303,785	182,430	△136,576	△156,121

(単位:千円)

	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高			
外部顧客への売上高	13,386,685	—	13,386,685
セグメント間の内部売上高 又は振替高	125,090	△125,090	—
計	13,511,776	△125,090	13,386,685
セグメント利益又は損失(△)	326,620	6,502	333,122

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額6,502千円には、貸倒引当金の組替額等が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自2020年5月1日至2020年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	インフラテック事業	不動産テック事業	アドテック事業	ヘルステック事業	エドテック事業
売上高					
外部顧客への売上高	4,008,111	3,406,940	3,930,486	1,165,080	906,453
セグメント間の内部売上高 又は振替高	31,388	30,566	68,033	—	1,123
計	4,039,499	3,437,506	3,998,519	1,165,080	907,576
セグメント利益又は損失(△)	272,006	307,215	121,030	130,435	△215,962

(単位:千円)

	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
売上高			
外部顧客への売上高	13,417,071	—	13,417,071
セグメント間の内部売上高 又は振替高	131,111	△131,111	—
計	13,548,183	△131,111	13,417,071
セグメント利益又は損失(△)	614,725	2,622	617,348

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額2,622千円には、貸倒引当金の組替額等が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

株式会社モイネットシステムを連結の範囲に含めたことにより、「ヘルステック事業」におけるのれんが316,198千円増加しております。